

自主調査研究報告【継続報告】

北海道の港湾の国際競争力強化に向けた調査研究(継1A-2-②)	大分類	継1A
	中分類	継1A-2

1. 目 的

政府では、農林水産物・食品の輸出額を2020年までに1兆円とする方針を打ち出しており、北海道においても道産食品の輸出1,000億円を目標とした戦略が立てられている。

既に宗谷地域のホタテの欧州への輸出や、根室のサンマをベトナム等へ輸出するなど、道産品の輸出実績が増えてきている。これらの農水産品は、迅速・低廉に輸送されることが望ましいが、現状では、北海道の港湾からのダイレクトな輸送があまり出来ておらず、長時間輸送や高い輸送コストを強いられている。

北海道は、極東ロシアに近接していることや、アジアの中で北米に最も近いこと、さらには最近注目を浴びてきた北極海航路利用により欧州にも東アジアの中で最短の航路を形成できることなどの地理的優位性がある。このような地理的優位性を活かし、北海道から海外の港湾へのダイレクト航路を確保するための戦略の検討を行い、北海道の港湾の物流における国際競争力強化のための方策についてとりまとめ、港湾管理者が行う海外へのポートセールスの支援やダイレクト航路実現に向けた活動に資するものである。

2. 実施内容

2.1 ダイレクト航路確保に向けた検討

平成29年度は、実現性の高い港湾におけるダイレクト航路確保のための戦略と対応策について検討した。

2.2 北極海航路の活用に関する調査研究

北海道の地理的優位性を発揮できるような取

扱貨物等を調査し、北海道への北極海航路誘致の可能性を検討する。

3. 主要な結論

3.1 ダイレクト航路確保に向けた検討

検討の方向性について協議するとともに、北海道港湾の整備主体である北海道開発局へのヒアリングを行った。また、情報収集として、稚内—コルサコフ航路の運営会社（北海道サハリン航路(株)）と実際にサハリンを訪問し、同航路の将来展望等の情報を収集した。

3.2 北極海航路の活用に関する調査研究

北極海航路の利用動向等の情報を収集した「北極海航路通信」(隔月発行)を当センターホームページに掲載し、会員向けに発信した。また、北極海航路誘致を進めている港湾管理者支援として、稚内港、釧路港、根室港、紋別港において、北極海航路の利活用戦略について川合理事長による講話を実施した。なお、日中韓3か国による北極海航路関係国際会議(NPARC)がH29.12.15に開催され、センターからは理事長及び研究員が参加した。

4. 今後の対応

4.1 ダイレクト航路確保に向けた検討

戦略実現のための活動を検討し、港湾管理者が行うポートセールスへ支援等の行動を進めていく。

4.2 北極海航路の活用に関する調査研究

次年度も継続して情報収集を行い、検討内容を深める。また、「北極海航路通信」も継続して発信していく。